



第5回



地域の絆をつくる



# 防災コンテスト 受賞作品集

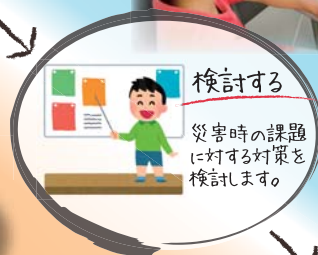


地域で起こりうる災害と被害を確認します。



調査する

災害時に地域で心配な課題を調べます。



検討する

災害時の課題に対する対策を検討します。

地域の防災に役立つ情報を地図に表したものを

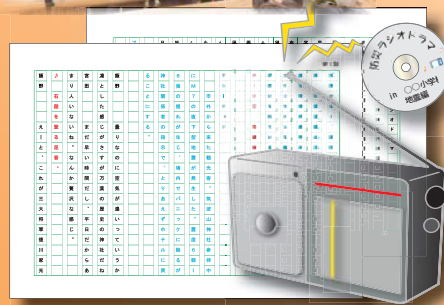


活用する

防災に関する会合や活動に活用します。

地域の防災に関するアイデアを物語形式に整理したもの

防災ラジオドラマ



防災コンテスト

検索



# 「第5回防災コンテスト」

## 概要

「防災コンテスト」は、「e防災マップ」及び「防災ラジオドラマ」の制作と活用を通じて、災害に強い協働型の社会構築を目指して開催しているものです。

主  
催



後  
援



協  
賛



## 日程(第5回)

申込開始  
2014年(平成26年)  
**6月1日**

応募締切  
2014年(平成26年)  
**12月26日**

結果発表  
2015年(平成27年)  
**2月6日**

表彰式・シンポジウム  
2015年(平成27年)  
**3月14日(土)**

## 受賞作品

参加グループ：113 グループ（e防災マップ 77 グループ、防災ラジオドラマ 36 グループ）

### e防災マップ

- 最優秀賞 『金栄校区地震・浸水避難経路防災マップ』 金栄校区自主防災会（愛媛県新居浜市）
- 優秀賞
  - 継続発展賞
    - 『星崎学区防災マップ』 星崎学区連絡協議会（愛知県名古屋市）
    - 記録活用賞
      - 『“気仙沼” 震災伝承マップ』 大阪大学 現代社会学（大阪府豊中市）
      - こども防災賞
        - 『子供たちと住民が一緒に考えた、常磐東学区の防災』  
岡崎市立常磐東小学校 6年生（愛知県岡崎市）
        - 『「古和浦親子防災の会」 防災マップ』 古和浦親子防災の会（三重県南伊勢町）
    - 新規視点賞
      - 『観光・防災幸せます MAP（防府駅から天満宮編）』  
水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊（山口県防府市）
      - 『豊中国際救援マップ（Toyonaka Disaster Prevention Map）』  
大阪大学人間科学研究科社会環境学講座（大阪府豊中市）
    - 地域調査賞
      - 『ゆり起そう区民全員の防災・減災に対する心』  
五ヶ丘第四自治区防災グループ（愛知県豊田市）
      - 『浜松市役所周辺地区の防災マップ』  
静岡県土地家屋調査士会西遠支部（静岡県浜松市）
  - 奨励賞
    - 『「水害から10年目の恐怖」のマップ化』 NPO 法人キズナの森（新潟県長岡市）
    - 『原上地区における街歩き土砂災害マップ』  
福岡工業大学社会環境学部森山ゼミ防災グループ（福岡県福岡市）

### 防災ラジオドラマ

- 最優秀賞 『障害者が避難所にきたら』 <脚本>  
豊橋市障害者福社会館（さくらピア）（愛知県豊橋市）
- 優秀賞
  - 継続発展賞
    - 『避難どきと避難ルート』 <脚本> 下富岡地区（新潟県長岡市）
    - 記録活用賞
      - 『高田地震から学ぶ地域の絆』 <音声> 保坂先生と愉快的仲間達（新潟県上越市）
      - 地域交流賞
        - 『地域と公民館の防災訓練』 <脚本> 久喜市中央公民館（埼玉県久喜市）
        - 新規視点賞
          - 『熊と生きる町』 <音声> 富山県立南砺福野高等学校放送局（富山県南砺市）
          - 『ラジオのある夜』 <音声> 江戸川女子中学校放送部（東京都江戸川区）
          - 『情報の活かし方』 <音声> 崇城大学 SCB 放送局（熊本県熊本市）
        - 地域調査賞
          - 『富士山のふもとで暮らすということ』 <音声>  
防災パートナーの会（静岡県富士市）
          - 『帰宅困難者対策（名鉄 藤川駅）』 <音声>  
愛知産業大学三河高等学校放送部（愛知県岡崎市）
    - 奨励賞
      - 『伝えられていない教訓』 <音声> 江戸川大学隈本ゼミ津波グループ（千葉県流山市）
      - 『地図に載せる気持ち』 <脚本> 水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊（山口県防府市）

## 審査委員会（敬称略・写真は左から記載順）

### ■ 審査委員長

平田 直 東京大学 地震研究所地震予知研究センター センター長

### ■ 審査委員（50 音順）

臼田 裕一郎 防災科学技術研究所 災害リスク研究ユニット プロジェクトディレクター

大窪 健之 立命館大学 歴史都市防災研究所 所長

鍵屋 一 板橋区役所 区議会事務局 事務局長

千野 秀和 NHK 高知放送局 放送部アナウンサー

早川 典夫 星崎学区連絡協議会 防災担当

丸山 秀明 文部科学省 地震・防災研究課 防災科学技術推進室 室長

四日市 正俊 内閣府 政策統括官（防災担当） 付参事官（事業推進担当）



## 審査委員の講評

第5回防災コンテスト（主催：国立研究開発法人防災科学技術研究所、後援：内閣府・文部科学省）には、全国より113のグループからの参加（e 防災マップ 77 グループ（新規:55、継続:22）、防災ラジオドラマ 36 グループ（新規:21、継続:15））がありました。参加グループには自治会、町内会、自主防災会など、地域に密着したいわゆる住民組織だけではなく、小中高等学校の生徒会やサークル、大学のゼミなどのグループ、各種 NPO や福祉団体、さらには外国籍住民コミュニティなど、普段は防災ではない活動をしているグループからも応募があり、防災への関心の高さと、防災への取り組みに関係する方々の幅の広さを感じることができました。

応募作品には、地域住民、災害時要援護者（高齢者や障がい者、乳幼児、外国人など）とその支援者、非住民である学生や企業関係者など、災害時に連携が求められるさまざまな地域関係者の相互理解と協力が進められるよう、具体的かつ明確な課題の設定がなされているものが多くみられました。また、作品の制作過程において、地域防災活動との連動のみならず、防災以外の地域イベントとの連携、さらにはコミュニティ放送局を通じて防災ラジオドラマ作品を放送するなど防災啓発活動への結び付けなど、実践的かつ積極的に展開しているケースもありました。

新たな取り組みとしては、地域内の複数のグループが共同してコンテスト地区予選を実施し、そこで評価された作品を厳選して応募するケースや、過去にいずれかのコンテストに応募経験のあるグループがもう一種のコンテストへと作品を発展展開するケースなども登場し、取り組みの継続性や発展性が生まれました。

作品は学識経験者等による審査委員会にて厳正な審査を行い、最優秀賞と優秀賞が選出されましたが、優秀賞作品については、作品の特徴を明確にするために、高く評価された部分に対応した賞の名称を下記の通り付与することにいたしました。

- ・地域のハザード情報や防災資源、被災経験などの地域固有の情報について綿密に調査していること。（地域調査賞）
- ・地域のさまざまな関係者と積極的に交流を深めていること。（地域交流賞）
- ・防災における新たなアイデアや斬新な視点を取り入れていること。（新規視点賞）
- ・地域における過去の災害経験や教訓を後世に伝えようとしていること。（記録活用賞）
- ・防災コンテストに継続して参加し、作品及び地域防災活動の発展が見られること。（継続発展賞）
- ・子どもの視点を取り入れた防災活動に取り組んでいること。（こども防災賞）

受賞作品及び各作品に対する審査委員の講評につきましては、下記のサイト、または、インターネット検索サイトにて「防災コンテスト」で検索してください。

**防災コンテスト公式サイト** <http://bosai-contest.jp>



## 表彰式・シンポジウム

2015年3月14日（土）、仙台市のTKP ガーデンシティ仙台勾当台にて「第5回防災コンテスト 表彰式・シンポジウム」を開催いたしました。受賞団体・審査員を始め、NPO 団体関係者、防災活動関係者、メディア関係者、一般参加の方など全国から約100名の方々にご来場いただきました。



受賞グループ（左:e 防災マップ、右:防災ラジオドラマ）

当日は全国からご来場いただいた皆様で、作品の紹介と審査員の講評に加え、作品の制作過程で得られた防災活動の知恵、今後の活動などについて、参加グループ間の活発な交流と意見交換が行われました。



※第3回国連防災世界会議（仙台）の関連事業として開催しました。



防災科学技術研究所は第3回国連防災世界会議を支援しています。

## 部門別の講評

各受賞グループの活動と作品の評価ポイントを踏まえて、審査委員会より、e 防災マップと防災ラジオドラマの全体講評とアドバイスが送られました。

### e 防災マップの全体講評

回を重ねるにつれ、コンテストの趣旨の一つである「各種災害ハザード情報等の専門知の活用」や「日頃の地域資源の活用」といった面については、作品への反映も深くなり、内容の充実がうかがえました。作品作りに必要な防災基礎情報をよく調べ、丹念に精査していることは、防災活動の基本として評価できるものです。

作品の表現に関しては、高齢者、障がい者など災害時要援護者などにもわかりやすく伝えることを意識したものが多くなってきています。地域の災害リスクの確認、検証の過程を通じて、共助を意識したデータのマップへの反映や関係組織への積極的な働きかけなど、地域のさまざまな関係者を巻き込もうとする動きが認められます。また、地域住民が参加する防災訓練、地域の祭りや親子で楽しむ地域のイベントなど防災以外の取り組みを活用した情報の共有も試みられています。このような取り組みのためにも地域の災害リスクに関する基礎情報を精査することが必要になっていられると思います。

東日本大震災の記憶が鮮明な時期でもあり、災害の記録と教訓の伝承のために、被災地の地域コミュニティとの協力による「空間を超えた連携」が試みられたり、学校の児童・生徒（子ども）と地域の住民や関係者（おとな）との「世代（時間）を超えた連携」による作品の制作など、新しい展開が認められたことは特筆すべき点といえるでしょう。



### 防災ラジオドラマの全体講評

防災ラジオドラマの趣旨である災害の時間軸に沿った理解（シナリオ化）については、災害直後のいわゆる緊急時対応ではない平時の備えなどをテーマにした作品の応募もありました。ともすれば金太郎飴的な対応になりがちな災害直後の課題についても、地域の事情を反映して参加者が主体的な取り組みを行おうとしている点は、マニュアル対応ではないラジオドラマならではの災害理解が効果を生んでいるものと認められます。これらによって地域の防災上の課題に気づかされる市民も多いのではないかと思います。

作品の中には地域の多様な主体による意識の差を表現しているものもありました。起きている事態が同じでも、SNSなどを駆使して災害情報を収集し適切な行動を取ろうとする若者グループと、情報端末に疎遠な高齢者との考え方の違いが見事に描かれている作品では、平時の対話が進められれば解決する事態も多くあることを気づかせてくれます。同様に避難所における障がい者の視点を描いた作品は、私たちの社会の多様性を尊重することがいかに大切かを教えてくれています。



修学旅行の最中に遭遇した地震をきっかけにして「観光&防災マップ」という新しいアイディアに至った学生グループの気づきと実践を描いているものなど、若い世代がもつ特有の感性と視点が活かされているものがある一方で、学校での活動の枠を超えて地域との連携を進める部分では未だ十分ではないことがうかがわれます。学生グループには今後は作品作りを通じて、地域の様々な主体との関係を見直すきっかけとされることを期待します。

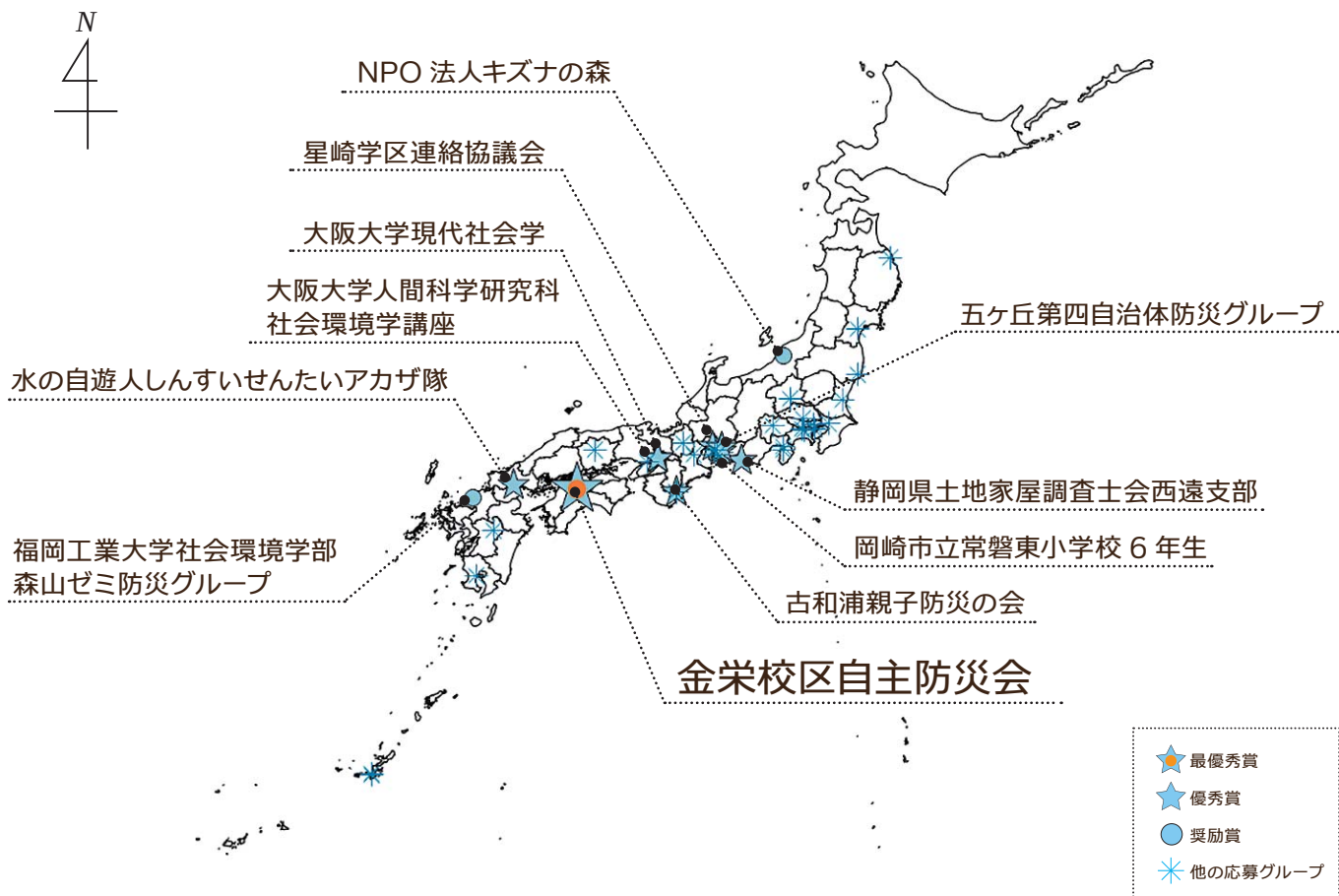




第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ

- 最優秀賞 『金栄校区地震・浸水避難経路防災マップ』 金栄校区自主防災会（愛媛県新居浜市）
- 優秀賞 継続発展賞 ・『星崎学区防災マップ』 星崎学区連絡協議会（愛知県名古屋市）  
記録活用賞 ・『“気仙沼” 震災伝承マップ』 大阪大学 現代社会学（大阪府豊中市）  
こども防災賞 ・『子供たちと住民が一緒に考えた、常磐東学区の防災』  
岡崎市立常磐東小学校 6 年生（愛知県岡崎市）
- 新規視点賞 ・『「古和浦親子防災の会」 防災マップ』 古和浦親子防災の会（三重県南伊勢町）  
・『観光・防災幸せます MAP（防府駅から天満宮編）』  
水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊（山口県防府市）
- 地域調査賞 ・『豊中国際救援マップ（Toyonaka Disaster Prevention Map）』  
大阪大学人間科学研究科社会環境学講座（大阪府豊中市）  
・『ゆり起そう区民全員の防災・減災に対する心』  
五ヶ丘第四自治区防災グループ（愛知県豊田市）  
・『浜松市役所周辺地区の防災マップ』  
静岡県土地家屋調査士会西遠支部（静岡県浜松市）
- 奨励賞 ・『「水害から 10 年目の恐怖」のマップ化』 NPO 法人キズナの森（新潟県長岡市）  
・『原上地区における街歩き土砂災害マップ』  
福岡工業大学社会環境学部森山ゼミ防災グループ（福岡県福岡市）





第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



愛媛県新居浜市（地震・風水害）

金栄校区自主防災会 / 金栄校区地震・浸水避難経路防災マップ

## 作品・活動ポイント

- 平成16年の台風21号による浸水被害がきっかけで結成された自主防災組織で、継続的に自主防災活動を実施している。
- 台風災害から10年が経過し、地域の実情や住民も当時と変化していることと、南海トラフ地震等発生時を想定した対策なども地域防災上の課題が認識されている。
- 例年行っている児童及び地域見守り隊などの方とまち歩きを行う際に目標を定めて、平成16年災害の被災箇所、地震や豪雨災害が発生した際に被災する可能性の場所や災害発生時に役立つ施設などの調査を実施した。
- 校区内の4箇所の避難所に対して、浸水被害の際には2箇所の避難所が浸水する可能性が高く、その際の避難所や避難ルート、地震の際の避難ルートに着眼して防災マップをつくった。
- 平成26年度、金栄校区では、地域防災の日を設けて、自治会、防災士、小学校、関係機関などが連携した防災訓練を実施した。



## 評価・期待ポイント

- 子どもの安全な避難をテーマに、地震、津波、豪雨など、災害類型別の安全な避難場所と避難経路をわかりやすく表現した完成度の高い作品である。
  - 地域のハザードマップ（専門知）を下敷きに、過去の災害履歴（経験知）を細かく調査して写真を掲載するなど、豊富な災害情報が記載された作品である。
  - 大人に学ぶ地域防災、大人と探検する防災まちあるき、子ども自らの目線での安全性の評価など、学校での楽しい防災教育として高い効果を発揮している。
  - 作品制作までの一連の活動を、行政の防災担当や学校関係者と協力しながら子どもと一緒に実践し、子どもと大人の世代を超えた地域協働が形づくられている。
- 
- 子どもの目線からの評価から出された課題について地域全体で共有し、避難訓練を通じて安全性を検証するなど、継続した活動の展開を期待したい。
  - 地域の多様な主体の参加を促したり、取り組みのノウハウを周辺校区とも共有するなど、地域全体での広がりを意識した防災活動を期待したい。





第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



愛知県名古屋市（地震・津波・その他【液状化】）  
星崎学区連絡協議会 / 星崎学区防災マップ

## 作品・活動ポイント

- これまでの活動成果を生かし、防災訓練を通して地域の課題を検証するために、活動しているグループ。
- 避難経路や津波避難ビル、震度や津波到達時間など、行政から発行された最新のハザードマップと比較し、液状化現象なども地域防災キットを参考にして作成した。
- 「訓練計画づくりと実施」に向けた活動として、防災マップづくりや、防災ラジオドラマづくりで作成した災害対応計画を訓練として実践し、実現可能な対応計画かどうかを検証した。
- 訓練参加者やボランティアの方から、とても分かりやすく安全な避難経路として、評価された。
- e コミマップを使った防災活動事例として紹介し、他の地域の方々にも自分たちの地域のリスクに気付いてもらえるよう、普及活動を展開している。



## 評価・期待ポイント

- シンプルなアイコンを使用した危険情報や資源情報、学区内の標高差に応じた推奨避難経路など、災害時の行動につながりやすい作品である。
- 年度を重ねて継続して取り組んできた活動成果（防災マップ及び防災ラジオドラマ）を踏まえ、災害（地震津波）、範囲（校区）、目的（要援護者支援）、方法（訓練計画づくりと実施）を明確に設定して取り組んでいる。
- 災害時の要援護者を見守るといった目的に対し、住民、事業所、行政などがリスクコミュニケーションを通じて幅広い協力体制を築きながら活動を展開している。
- 継続した活動によって増えつつある防災マップ上の情報に対し、情報を集約するマップや利用目的に応じて公開するマップに分けるなど、より利便性を高めた情報整理を行ってほしい。
- 防災活動に関する長年のノウハウを活かし、地域を超えた情報提供や意見交換など、周りの地域と連携した防災活動の広がりを期待したい。



第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



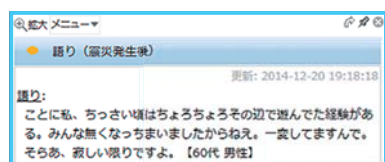
記録活用賞

大阪府豊中市（地震・津波）

大阪大学現代社会学 / “気仙沼” 震災伝承マップ

## 作品・活動ポイント

- 稲場研究室（大阪大学人間科学研究科社会環境学講座現代社会学研究室）では「宗教と防災」「ソーシャルキャピタル」を軸に研究を行っている。
- 本マップは気仙沼の方々とのコラボレーションによって作成された。マップ名については、聞き取り調査の際、気仙沼の方々に投票をお願いし決定した。
- 現地での聞き取り調査を通して、東日本大震災に関わる語り、写真を収集した。制作にあたり、気仙沼の方々に経験談、また、多くの写真や貴重な資料も提供していただいた。
- 作品については、写真と語りを通して地震と津波被害の影響、さらに、震災以前の気仙沼の様子にも焦点を当てており、特徴的なマップづくりを展開している。



## 評価・期待ポイント

- 東日本大震災前後の街並みや景色の変化に関する豊富な写真（記録）と丁寧に調査・収集した被災者の体験談（記憶）について、価値の高い災害教訓史料としてアーカイブした作品である。
- 震災当時の死を扱う難しさを超え、被災地の記録と記憶を教訓としてわかりやすく地図上に表現しており、広く伝承できる力作である。
- 過去の災害経験を後世に伝えるべく、非被災地の大学と被災地の地域コミュニティが協力し、空間を超えた連携が図られている。
- 写真と談話の関連性を考慮して情報を整理（関連項目アイコンのグループ化）するなど、よりわかりやすさを追求した作品に仕上げてほしい。
- 被災地だけでなく非被災地でも役に立つ活用方法を提案したり、他の地域まで範囲を広げた活動が展開できるよう、取り組みの継続と発展を期待したい。





第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



愛知県岡崎市（地震・風水・土砂）

岡崎市立常磐東小学校 6 年生 /

子供たちと住民と一緒に考えた、常磐東学区の防災

## 作品・活動ポイント

- 当校の6年生児童が、防災意識を啓発するために、防災学習の一環として結成したグループである。
- 当校の学区は土砂災害危険区域に指定されている箇所が多く、40 パーセントの方々がそのことについて強く心配している、ということが学区住民のアンケート結果からわかっている。
- 保護者や学区住民に意識調査を行い、それらをまとめて分析し、地域の防災訓練の場でも発表させていただき、啓発活動を行った。
- 危険箇所については、地域の方が市役所などの関係機関に働きかけてくださったおかげで、多くの箇所が改善され、公衆電話は新たに5箇所を設置された。
- 当初、掲示用の大きな学区地図に防災マップを作成していたが、それを e コミマップで情報をブラッシュアップし、ホームページを開けば誰でも見られるようにした。



## 評価・期待ポイント

- 災害に対する地域の強さと弱さを、子どもの視点からわかりやすく整理した作品である。
- 子どもの目線で発見された地域の課題が、行政、研究機関、NPO などの大人によって具体的に改善（公衆電話の設置や、危険箇所への看板の設置など）され、学校防災と地域防災の両方において十分な成果を達成している。
- 学校を軸に、地域や行政との意見交換を行っており、地域に密着した防災教育の良い手本となっている。
- 対象災害による避難経路の寸断も考慮し、必要に応じて避難経路を重複設定することも検討してほしい。
- 活動に参加した児童の卒業後も、下級生に情報が引き継がれる学校の継続的な防災教育の仕組みとしての構築を期待したい。
- 活動による防災意識の変化を調査して今後の活動のステップアップに活かすなど、地域の防災意識を高める活動を期待したい。





第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



## 三重県南伊勢町（地震・津波） 古和浦親子防災の会 / 「古和浦親子防災の会」防災マップ

### 作品・活動ポイント

- 平成 23 年 3 月 11 日、東日本大震災の映像を見て、「津波から子どもたちの命を守りたい」という志を持つおかあさんたちで、平成 25 年 7 月、正式に立ち上げたグループである。
- 防災タウンウォッチングを行い、防災について学習した内容を元に防災マップをつくっている。
- 危険箇所としてマークを付けた場所の写真を撮りに行き、写真を使って分かりやすさを工夫している。



### 評価・期待ポイント

- 自然災害にまつわる危険情報や資源情報に特化せず、子どもの安全を考慮して道路の危険性などについても写真等でわかりやすく表している作品である。
- 消防団と行ったタウンウォッチングや、子どもからお年寄りまでが一緒に参加した防災訓練、避難生活をイメージした非常食の検討など、地域の関係者が協力して有意義な子どもの防災教育を展開している。
- 地域の祭りやイベントでの炊き出し、防災マップの展示など、親子が楽しみながら地域防災の理解を深めることができ、地域全体での防災教育の効果につながっている。
- 親子の目線から災害時の地域課題と防災対策を具体的に検討したうえで、目的を明確にした防災マップの制作を期待したい。
- 作品を活用した防災訓練など、具体的な活用方法を考え、継続した活動を期待したい。



第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



新規視点賞

山口県防府市（風水）

水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊 /

観光・防災幸せます MAP（防府駅から天満宮編）

## 作品・活動ポイント

- 川遊びが好きな子どもたちが校区を越えて集まったグループで、山口県佐波川で活動を始めた。
- 地域の方と活動している時、昔佐波川が暴れ川だったという話を聞き、自分たちが普段遊んでいる佐波川の違う一面も学ぼうということで防災学習を始めた。
- 春に1回目の街歩き（個々で手書きマップを書いて、透明シートに危険箇所を記入）を行い、夏の2回目の調査（大きな手書きマップを作成）の結果をe 防災マップにした。
- 観光・防災、観光防災両方に役立つものなどを種類分けして、なるべく風景の写った写真を添付することで、今いる場所と比較しやすいようにした。観光マップと防災マップのコラボレーションで観光・防災幸せます MAP をつくった。



## 評価・期待ポイント

- 地域の観光資源を防災資源として見直し、地域の「防災」と「観光」の共通資源の存在を認識させる作品である。
- 年度を重ねた継続的な取り組みとして、昨年度制作した防災ラジオドラマをe 防災マップに発展させており、子どもの視点からの取材を通じた各種情報の解説文も充実し、現場感覚が十分に出されている。
- 防災を目的としていない多様な地域関係者と協力して多数の防災学習会を実施するなど、地域の防災教育活動に意欲的に取り組んでいる。
- 初めて訪れた観光客にもわかりやすい情報提供をめざして、「防災」と「観光」の融合（印刷した際の見栄えを考慮しながら）をすすめてほしい。
- 観光案内所などで地域の「観光・防災マップ」として配布するなど、成果を活かした活用を期待したい。





第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ

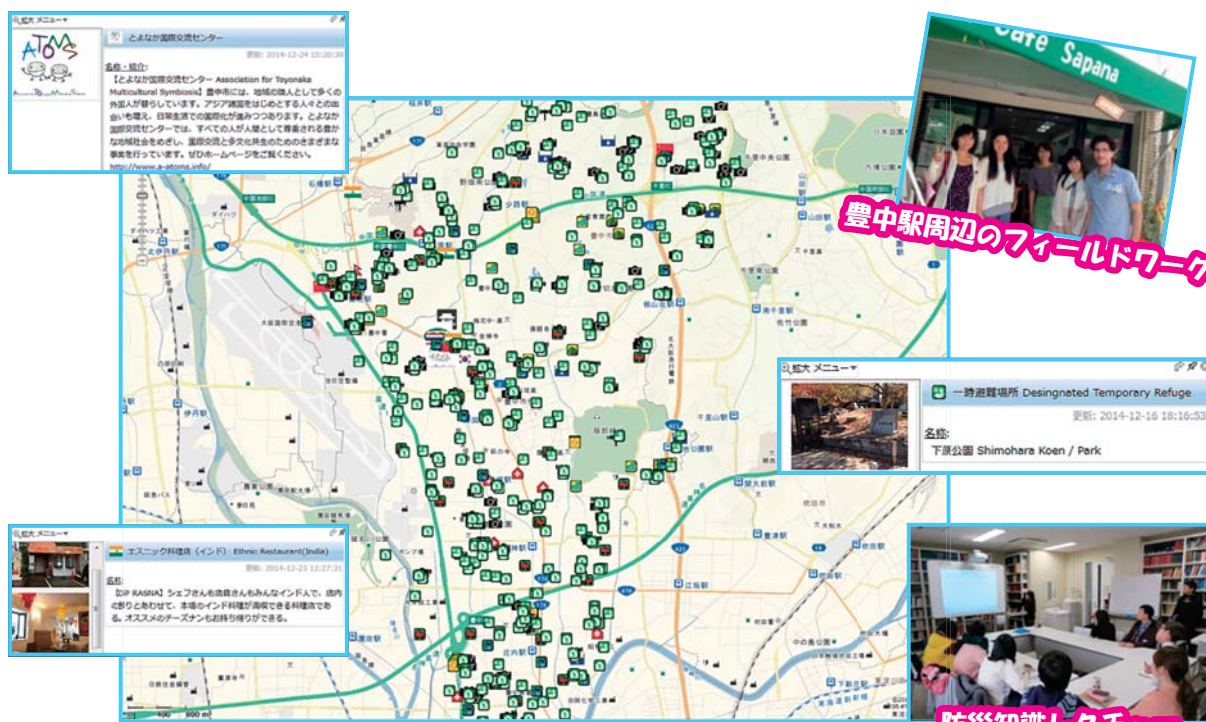


新規視点賞

## 大阪府豊中市（地震・津波・風水） 大阪大学人間科学研究科社会環境学講座 / 豊中国際救援マップ (Toyonaka Disaster Prevention Map)

### 作品・活動ポイント

- 稲場研究室（大阪大学人間科学研究科社会環境学講座現代社会学研究室）は「宗教と防災」「ソーシャルキャピタル」を軸に研究を行っているグループである。
- 大学が置かれている豊中市を対象とした「とよなか国際救援マップ」と題して、外国人のための防災マップを作成した。
- マップについては、豊中市危機管理室と連携し、現在ある避難所のデータを全面的に電子化した。主な避難施設については外観が分かるようフィールドワークに出かけて写真を撮り、位置情報と合わせてローマ字・英語表記を付した。
- マップ作成の活動と合わせて私たちの活動を知ってもらえるよう、地域に根ざして活動する団体とコミュニケーションを取り、周知に努めた。
- 留学生を招いて避難所運営ゲーム「HUG」や「クロスロード」を用いた防災勉強会を実施した。



### 評価・期待ポイント

- 防災情報が届きにくい外国人を災害時要援護者として捉え、地域の災害危険箇所や防災資源に関する情報の届きやすさが工夫（国旗アイコン、英語表記、写真など）された作品である。
- 外国人の交流拠点（外国人が運営しているカフェやレストランなど）への訪問インタビューを通じて課題を洗い出すなど、十分なフィールドワークをもとにした現場感覚が伝わる作品である。
- 在住している外国人とのコミュニティ形成を意識し、行政を巻き込んだ定期的な楽しい交流を通じて、防災情報共有のあるべき姿を検討している。
- ハザードマップなどを利用して災害危険性を評価し安全な避難経路を示すなど、災害時の行動につながりやすい情報提供についても検討してほしい。
- 地域住民をはじめ、学校や教会などの多様なコミュニティが参加した意見交換や避難訓練を行うなど、災害時の地域協力が得られる防災体制づくりを期待したい。
- 東京オリンピックのような今後の国際イベントに向け、このような取り組みの発展と展開を期待したい。





第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



愛知県豊田市（地震・風水・土砂）  
五ヶ丘第四自治区防災グループ /  
ゆり起そう区民全員の防災・減災に対する心

## 作品・活動ポイント

- 自治区が出来て20数年の浅い歴史のせいか、防災には後ろ向きな人が多く、住民の多くはサラリーマン家庭であり近所付き合いは少ない地域。10年後には、65歳以上の住民が半数以上を占める。
- 高齢化対策について話し合った結果、対象者の居所明示と支援者の関わりなどを見えるようにするために、e コミマップづくりを開始した。
- 地域活動の活性化、防災意識の向上を目指すツールとして豊田市の担当者より「防災マップづくり」を進められ、具体的な活動も市のバックアップを受けている。
- e コミマップでは、自治区内の情報だけでなく、防災資源（避難所、配水場、市と協定を結んだ施設 etc）を写真入りで表示、さらに中学校の通学路の危険地域を表示した。
- 防災マップづくりを継続し、地域の「顔の見える付き合い」の道具としてブラッシュアップする。



まちあるきでマンホール位置確認

## 評価・期待ポイント

- 地震災害時の危険情報や資源情報に加え、「火災」といった明確な課題に対する密度の高い情報（消火栓、消火ホースの長さ、溜め池など）が掲載された作品である。
- 行政における防災・水道・消防の各担当局への聞き取り調査をはじめ、地域内に設置されている消火ホースの長さまで細かく調べたうえで、消火活動の対応範囲を検証し防災マップ上に可視化する工夫がなされている。
- 行政やNPO 団体を巻き込み、中学生と一緒に課題を検討しながら地域を調査するなど、自治区内の様々な主体が協力した防災活動と防災教育を行っている。
- 防火用水として利用可能なため池や火災に安全な避難場所・経路など、作品の目的（火災対策）の達成とさらなる改善につながるアイデアについても検討してほしい。
- 作品をもとに、具体的な消火対策や避難対策の計画を立てて訓練で検証したり、検証結果を踏まえて情報を更新するなど、作品と活動の進化を期待したい。
- より多くの参加者を募り、様々な視点からの地域課題を出し合うなど、初期消火にとどまらず、地域課題（目的）に応じた地域全体への活動の広がりを期待したい。



第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

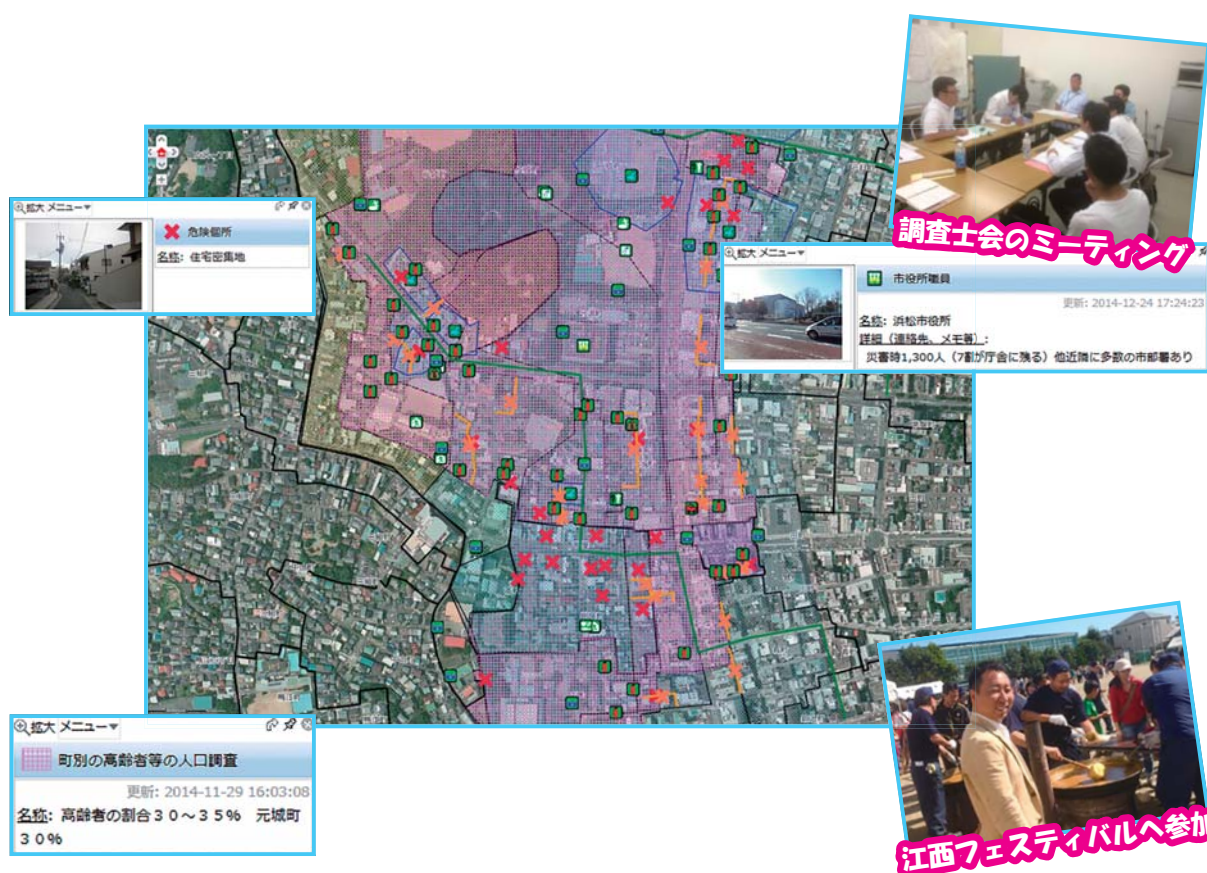
# e 防災マップ



## 静岡県浜松市（地震） 静岡県土地家屋調査士会西遠支部 / 浜松市役所周辺地区の防災マップ

### 作品・活動ポイント

- 静岡県土地家屋調査士会西遠支部にある研究会において、「資格者として地域に貢献する」ことを目的として、結成したグループである。
- 浜松市が作成している防災マップの検証を踏まえ、地震災害を対象とした地域密着の防災情報を表示し、今後の防災意識の啓発活動や災害時に利用できるマップづくりを行った。
- 防災活動における4つのステップの活動のまとめを、ステップごとに「まとめ」として活動記録へ記載した。



### 評価・期待ポイント

- グループの専門性を活かして地域を綿密に調査（家屋の密集や道路の狭さなど）し、得られた詳細な情報を、「確認」「調査」「検討」「活用」といった（本コンテストの）推奨ステップに分けてわかりやすく整理している。
  - 普段は防災活動を行っていない専門家集団が、地域住民の視点を重視した防災活動を通じて、緩やかに地域とつながっていくきっかけをつくりながら活動を展開している。
  - 前回のコンテストへの参加から大きく改善された作品を道具として、地元企業や学校、地域住民と意見交換を行うなど、幅広くかつ徐々に防災意識を啓発していくことに貢献している。
- 
- 地震による家屋や道路の崩壊危険性の情報を追加するなど、専門家ならではの目線から情報の更新を期待したい。
  - 今回の活動において協力が得られなかった地域関係者との連携を強化できる取り組みへの発展を期待したい。
  - 防災意識の啓発にとどまらず、専門家集団としての地域の様々なつながりを活かし、作品の具体的な活用を意識した地域防災活動への貢献を期待したい。





第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



新潟県長岡市（水害）

NPO 法人キズナの森 / 『水害から10年目の恐怖』のマップ化

## 作品・活動ポイント

- 長岡市中之島地域と見附市今町地域の資源を活かし、防災意識を高めキズナを深める仕組みづくりと、人が集う交流の場を創造し住民が互いに支えあう協働のまちづくりを担い、「地域力の向上」の実現に寄与することを目的として活動している。
- 10年前に刈谷田川の中の島側の堤防が決壊し、多くの住民が被害を被った。
- 「地域の災害における様々な情報がどこにあるのか?」、そして、誰に聞けば分かるのかを長岡市・見附市の隔たりなく作成したマップである。



『十年目の恐怖』のマンガ



避難訓練への参加

## 評価・期待ポイント

- 定点カメラや水位観測の正確な情報が容易に提供できる、電子マップならではの利用可能性を示す作品である。
- 昨年度の防災ラジオドラマを漫画化して地域と共有したり、今年度は同題材をもとに防災マップをつくるなど、ユニークでバリエーションのある活動を継続している。
- 昨年度の成果との連携した活用方法を期待したい。また、カバーする地域の範囲を明確に定め、危険箇所や避難経路を把握するなど、具体的な活用に期待したい。
- 作品をより多くの地域住民に周知し、住民からの経験情報を加え、地域防災力の強化につながる多様な防災情報のポータルとしての発展を期待したい。



第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

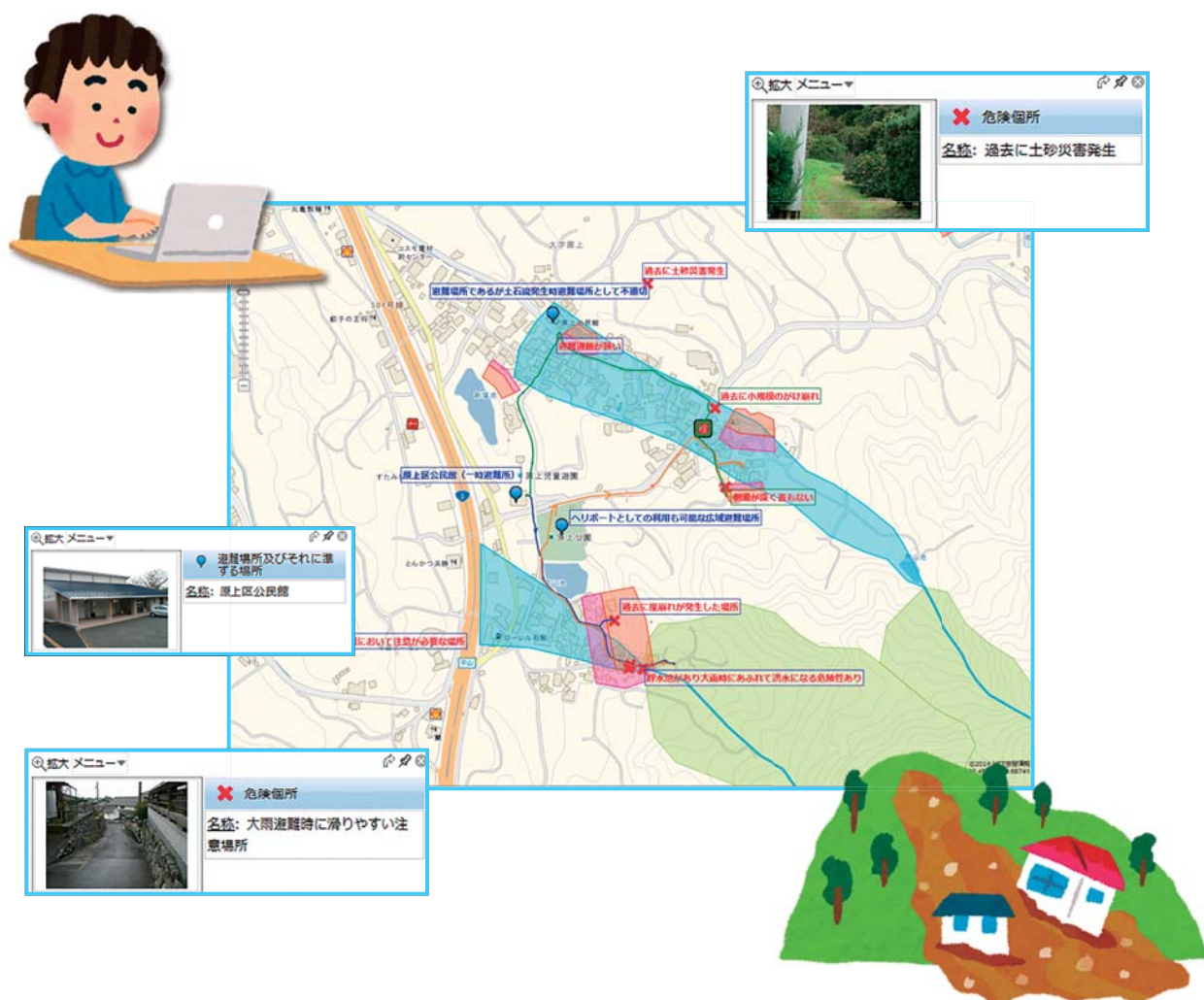
# e 防災マップ



## 福岡県福岡市（土砂災害） 福岡工業大学社会環境学部森山ゼミ防災グループ / 原上地区における街歩き土砂災害マップ

### 作品・活動ポイント

- 大学での研究教育の一環として、学生個々が目的意識を持って防災マップづくりに取り組んだ。
- 地域防災連携協定を結んでいる福岡工業大学と福岡県糟屋郡新宮町とで、地域防災の方と一体となって防災マップ制作を行った。
- 前回出展した際に課題となっていた点について、住民の方と一緒に地域防災マップづくりを行うことで地域の課題を解決した。



### 評価・期待ポイント

- 対象災害を明確にし、危険性に関する情報や安全な避難に関する情報など、災害時の行動に役に立つ情報が豊富である。
- 防災まちあるきで得られた危険箇所や、地域住民と意見交換した注意事項などを、写真と文字で丁寧にわかりやすく表している作品である。
- 作品を活用して、対象災害における要援護者（高齢者、障がい者など）の避難方法などについて検討したり、さらに、広域性を持つ大学としての対象範囲を広げた情報の精査を進めてほしい。
- 大学生としての情報に関する専門性と知見を活かして、多様な地域主体との活発な交流を通じた活動の展開を期待したい。







第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ

## ■最優秀賞 『障害者が避難所にきたら』＜脚本＞

豊橋市障害者福祉会館（さくらピア）（愛知県豊橋市）

## ■優秀賞

継続発展賞

記録活用賞

地域交流賞

新規視点賞

地域調査賞

- ・『避難どきと避難ルート』＜脚本＞ 下富岡地区（新潟県長岡市）
- ・『高田地震から学ぶ地域の絆』＜音声＞ 保坂先生と愉快的仲間達（新潟県上越市）
- ・『地域と公民館の防災訓練』＜脚本＞ 久喜市中央公民館（埼玉県久喜市）
- ・『熊と生きる町』＜音声＞ 富山県立南砺福野高等学校放送局（富山県南砺市）
- ・『ラジオのある夜』＜音声＞ 江戸川女子中学校放送部（東京都江戸川区）
- ・『情報の活かし方』＜音声＞ 崇城大学 SCB 放送局（熊本県熊本市）
- ・『富士山のふもとで暮らすということ』＜音声＞

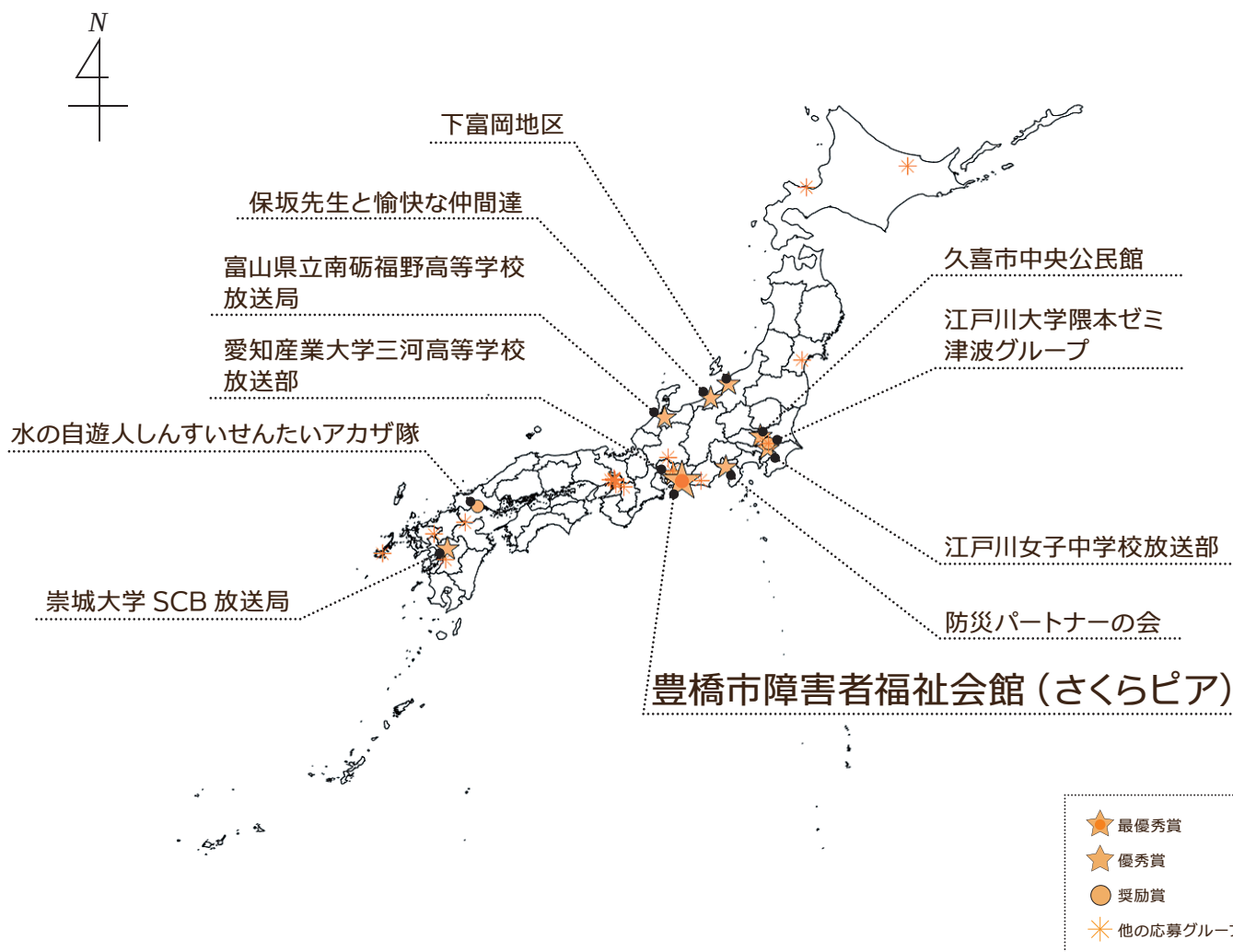
防災パートナーの会（静岡県富士市）

- ・『帰宅困難者対策（名鉄 藤川駅）』＜音声＞

愛知産業大学三河高等学校放送部（愛知県岡崎市）

## ■奨励賞

- ・『伝えられていない教訓』＜音声＞ 江戸川大学隈本ゼミ津波グループ（千葉県流山市）
- ・『地図に載せる気持ち』＜脚本＞ 水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊（山口県防府市）





第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (脚本部門)



## 愛知県豊橋市（地震） 豊橋市障害者福祉会館（さくらピア） / 障がい者が避難所にきたら

### 作品・活動ポイント

- 平成 21 年度から毎年開催している「さくらピア避難所体験」では、障がい者が管理運営する会館特性を生かした、障がい当事者主体の実践的訓練を実施している。
- さくらピア避難所体験（平成 26 年 9 月 27 日・28 日に豊橋市障害者福祉会館さくらピアで開催）の一環として「避難所における災害時要配慮者への配慮」をテーマに、障がい当事者自らが作品制作に取り組んだ。
- 制作方式は、障がい種別ごとの7グループ（肢体、車いす、聴覚①・②、視覚、知的①・②。それぞれ6、7人で構成）によるグループワークとした。どのグループも障がい当事者（障がい者・家族・介護者）だけでなく、健常者一般も参加している。
- 共通テーマ「避難所における災害時要配慮者への配慮」を設け、各グループで一貫した内容を制作した。

| ABグループ（身体障害、他） |               |
|----------------|---------------|
| 登場人物           |               |
| 篠島さん           | 避難所職員         |
| 後藤さん           | 町内住民          |
| 前田さん           | 町内住民          |
| 林さん            | 身体障害者、母が介護が必要 |
| 野口さん           | 町内住民          |
| 志保さん           | 町内住民          |

ライフラインがストップしてしまうと  
みんなが一番心配するのはトイレのこと。  
誰かが困っている時さりげなく声かけができるといいですね。

シナリオ→ 12月9日午前2時ごろ、豊橋市に震度6の大地震が発生しました。  
詳しい被災状況はまだ分かりませんが、ライフラインがストップ  
してしまいました。夜明けとともに、地域の第一避難所に  
近隣の住民が集まりはじめています。

後藤 「どこに行けばいいですか？」  
前田 「あそこに受付がありますから、まずそちらへ行ってください」  
後藤 「分かりました」

「こちらが受付です。名簿に記入してください」  
「トイレは使えますか？お母さんがトイレに行きたいと言っ  
ています」  
「小便は穴を掘ってやるしかないですね」  
「新聞にくるむとどうですか？」  
「公園だとマンホールに近接トイレをたてたりしますよ？」  
「小学校のトイレって水が断水してるから使えないよね？」  
「今はまだからプールの水も無いしー」  
「小学校のトイレの壁紙にビニール張をかぶせたのでせろを  
お使いくください。防災倉庫に風呂トイレがあるが確認してみます」  
「母は介護が必要なんです。自分自身も手に障害があるので  
母を手伝ってくれる方も誰かいませんかー？」  
「私がやりまます。私は身体障害者協会のボランティアをやってるんです」  
「それは助かります！」  
「それにしてもらいねー」  
「体育館で人もたくさんいますから、風邪予防のためにこの  
マスクを渡ってください。ボウリングも持ち歩いてるんで！」  
「みなさんー。毛布を持ってきてくれたのでこちらに届んでください」  
「やっときたわねー。林さんのお母さんの分ももらってくるから  
待っていてね」  
「全然知らない人なのに。優しくしてくれて。地域にはこんなに  
いい人なんだねー。もっと地域のつながりを大切にしたいな」  
ボウリングがあるけど、この避難所の中で何か自分ができることは  
ないか考えてみよう！」  
おわり



### 評価・期待ポイント

- 地域の避難所体験イベントにて障がいを持つ方と地域関係者が協力して障がい別のシナリオを制作し、身体的ハンディキャップからくる災害時の困難さをリアルに表現している。
  - 地域の支援者を交えた意見交換や、参加者に対するアンケート調査を通じて、解決すべき問題を発見し、それをよく反映した作品である。
  - 地域の方々も参加できる活動を展開し、支援者にとつての気づきを生みながら、障がいを持つ方の思いや行動を具体的に学べるなど、支援者にもわかりやすく受け入れやすい意欲的な取り組みがなされている。
- .....
- 作品に出されている課題に対し、地域の方々と一緒に解決方法を考えながら、今後も継続的な活動を期待したい。
  - より多くの人に伝えられるよう、脚本を音声化しいろいろなメディアを通じて内容の共有を図ってほしい。
  - 作品の活用を通じて、災害時の障がい者に対する理解が広がることを期待したい。





第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (脚本部門)

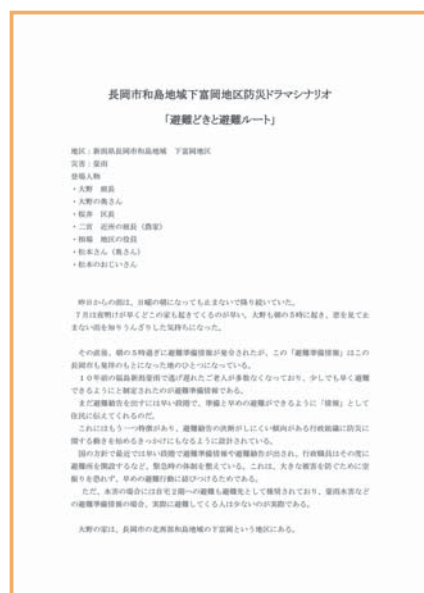


継続発展賞

## 新潟県長岡市（風水害） 下富岡地区 / 避難どきと避難ルート

### 作品・活動ポイント

- 長岡市和島地域（旧三島郡和島村）下富岡地区の区長及び役員・班長で結成しているグループである。
- 前年度のマップづくりの成果を活用し、主要幹線の灌水や山沿いの道の土砂崩れの場所を表し、通行不能になるのがどの時点であるのかを割り出した。
- 作品づくりを通じて、避難訓練の段取りから地区役員の集合と班への伝達を含め検討、その際に集落センターの災害対策センターと避難所の役割を再確認し、災害時の地区の対応の流れをつかむことができた。
- 作品づくりには、長岡市内の専門家と和島支所の防災担当者も入って検討した。



マップのシナリオ化の意見交換



地域の経験を盛り込んだ地図

### 評価・期待ポイント

- 大島や広島のと土砂災害といったホットな話題と比較しながら、地域の豪雨災害時の問題をイメージしやすく伝えている。
- 地域の豪雨被害に関するハザード情報と過去の経験を調べた結果（昨年度制作した e 防災マップ）をシナリオ化し、理解しやすく整理されたリアリティのある作品になっている。
- 昨年度の e 防災マップを活かして継続的に活動を行っており、地域防災における知識の獲得に十分な成果が現れている。
- 地域の状況をナレーションや台詞の中に盛り込み、よりリアルに伝える工夫をしてほしい。
- シナリオの続き（避難勧告発令後の警報解除やその後の事態）についても検討し、作品のステップアップを期待したい。
- 活動に参加していない方々と作品を共有するなど、地域防災に対する意識啓発につながる活動の展開を期待したい。



第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (音声部門)



新潟県上越市（地震災害）

保坂先生と愉快的仲間達 / 高田地震から学ぶ地域の絆

記録活用賞

## 作品・活動ポイント

- 研修部活動のメンバーで設立し、研修部活動の時間を使って作品を作成した。
- このコンテストに参加したのは、防災意識を高めることができ、地域の方々にも正しい防災を身につけてもらうことができるためである。
- この作品の特徴は江戸時代に実際にあった出来事を物語にし、役者は昔の話し方をする工夫もした。
- 高田地震については、地元に住んでいる私たちも知らなかったので、この活動を通して高田地震を知ってもらい、地域にみんなとの絆が大切だということを伝えられる作品になればよいと思い取り組んだ。



## 評価・期待ポイント

- 歴史上の地震災害に関する物語と現状の災害対策が対比され、史実感と現実感がよく伝わる作品である。
  - 子どもたちの視点から細かく調査し、作品に反映している。
  - 地域防災に対し、自分自身でできることを真剣に考えており、防災教育としても高い効果が得られている。
- 
- ドラマを聞いた人が歴史資料にアクセスできるように、調査した資料の出典を明示してほしい。
  - 被災当時の対応をもとに、今後取り組んでおくべき備えなど、作品を題材にした更なる検討を進めてほしい。
  - 作品を活用して歴史上の災害を伝承しつつ、これを踏まえて今後の災害対策について検討するなど、具体的な行動に繋げられる活動を期待したい。







第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (脚本部門)



地域交流賞

埼玉県久喜市（地震）

久喜市中央公民館 / 地域と公民館の防災訓練

## 作品・活動ポイント

- 久喜市中央公民館の平成26年度主催事業として、防災をテーマに取り上げたことから、中央公民館に勤務している久喜市職員と地域の住民で構成される中央公民館運営委員会を中心に防災ラジオドラマづくりに取り組むことにした。
- 埼玉県久喜市周辺で大きな地震が発生したと想定し、地震発生から約6時間を目安に、地域住民の安否の確認と救出に特化した内容として作成した。
- 「第5回防災コンテスト」に応募した理由は、「防災に関する事業」で実施する内容をドラマ化し、事前に配布することで参加者に事業内容を容易に理解してもらうことを狙いとしたためである。
- 久喜市中央公民館が地域に配布している公民館報にラジオドラマに関する情報を掲載することで、より多くの住民の意識の高揚につながればと思っている。

防災コンテスト（防災ラジオドラマ） 埼玉県久喜市中央公民館

この物語はフィクションです。

都心から約50km、久喜市は、埼玉県の東北部にあります。

交通の便がよく、豊かな自然も残っていて、とても、住みやすいところです。

これまで、昭和22年のカスリーン台風による被害を思い、大きな災害に見舞われたことはなく、みんな平穏に暮らしていました。

針ヶ谷豊隆（42歳）、久喜で生まれ育ち、久喜市久喜中央公民館（豊隆）と子ども2人（悠太（悠太）、夫の母（紗））と妻帯住宅に暮らしている男系主夫である。

気さくな性格で面識がよく、人に頼まれると嫌と云えないので、子どもの通う小学校のPTA役員や市の民生委員児童委員、区の議員をしながら、近くの公民館で非常勤職員として働いている。

なにかと忙しい毎日ではあるが、本人は楽しく過ごしている。

今日は、金曜日。朝、いつものように、夫と子どもたちを送り出した。

今日は、公民館の仕事はない。

義理の母（紗）は、その公民館に民謡の練習に出かけた。

家事を終わらせ、一息ついた午前9時03分、突然、携帯電話から緊急警報音が鳴り響いた。

「地震が来る！ 大きい！」そう感じた、大きな揺れが起きた。家全体を揺るがす大きな地震。

とろりとダイニングテーブルの下に隠れる。今までに経験した地震と違い、揺れている時間が長い。

台所の食器棚から食器やグラスが落ち、割れる音が響いている。

先月「埼玉県家具固定サポーター定額制度」を利用して固定した部屋の家具は、転倒することも無く、中のものが落下することもなかった。

台所は、割れた食器やグラスが床に散らばっている。食器棚も床面に固定する予定であった。

揺れが収まったので、外に出てみた。

肉がいの家の影石の壁が無残にも倒れている。屋根瓦が落ち、倒れている家もある。

愕然とこういふことなのだろうか、ただ、周りの様子を見ていた。

近々の家から住人が出てきた。

みんな、あまりにも震わってしまった景色に、言葉にならない声をあげている。

その時、また、大きく揺れた。

余震だ！

針ヶ谷豊隆「みなさん、公民館に避難しましょう！」



ち、久喜中央住民の避難  
安否を確認して進んだ。

ら？」

公民館職員「針ヶ谷さん、地震で気がついたら、小学校が避難所になって、子どもたちは、家具の落下で怪我です。これから、館内の人に連絡

するところですよ。」

針ヶ谷豊隆「ああ、よかった！」

久喜市では、市役所、消防署、警察、各避難所、小中学校、高校を兼ね、災害時の電話回線が設置されていて、災害時には、各学校は児童、

生徒、学生の安否を他の施設に知らせることになっている。

公民館職員「針ヶ谷さん、後で避難所開設のお手伝いをお願いします。」

針ヶ谷豊隆「はい、区の仕事が終わりましたら、すぐに行きます。」

公民館職員「場所、館内の皆さんにお知らせします。小学校と中学校から連絡があり、子どもたちは全員無事です。」

中央公民館周辺は、停電であったため電気が使えなかった。

地震の震度などの詳しい情報は、防災課の車のラジオから集めた。

公民館職員は、目下、避難所開設に向けて行動中である。

館内の安全確認を済ませ、居室に机や椅子を配置し、避難者の休息スペース作りや、配給物資を置くスペースの確保などに奔走している。

日ごろ、中央公民館の運営に携わっている、地域の住民で構成された中央公民館運営委員会も駆けつけ、一緒に避難者への対応、これから公民館

に来るであろう帰宅困難者の対応の準備を進めている。

中央公民館運営委員 小林「館長！ 私たちは、飲み出しの準備をします。」

中央公民館館長「よろしくお願いします。必要なものは、備蓄倉庫から持ってきます。」

中央公民館運営委員 橋本「私は、館内の様子を見てきます。」

中央公民館運営委員 高田「私は、公民館周辺のパトロールをします。」

なにかあれば、公民館に駆けつけて手伝ってくれる。中央公民館は地域の人の暮らしを支えている。



## 評価・期待ポイント

- 災害発生からの事態の流れに対し、共助の視点から住民が行うべき行動がよくまとめられた現実味のある作品である。
- 避難や救助時における行動の手順や注意点、外国籍住民の対応やペット飼育世帯の問題など、地域の方々が気にしている問題がよく整理されている。
- 公民館を軸に地域と行政が協力し、数回にわたる会合を通じた防災マニュアルづくりや防災組織の結成など、積極的な防災活動がなされており、その結果が作品によく反映されている。
- 作品の内容（防災マニュアルに掲載した内容）以外にも、災害時には予想外の事態が発生しうることでも示唆してほしい。
- 作品を活用した防災訓練を行い、対応や行動を検証するなど、継続した取り組みを期待したい。
- 広報誌に掲載したり、演出を加えて音声化し放送するなど、地域住民との防災知識の共有を図ってほしい。





第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (音声部門)



## 東京都江戸川区（地震） 江戸川女子中学校放送部 / ラジオのある夜

### 作品・活動ポイント

- 江戸川女子中学校の放送部 3 年を中心につくったグループで、毎年 NHK 杯に出場している。
- ラジオを聞かない、非常袋の中に入っている缶切りやせんぬきなどの使い方が分からないなど、今の中学生が抱えるさまざまな固有な課題に着目した。
- 災害時に閉じ込められたときにどう対応するかについて書いた作品である。

○放送室

下校放送。

音集「1」

るみ「みなさん、下校時間十分前です。急いで下校の準備をしてください。残って活動する生徒は職員室前の廊下に入ってください」

音集「2」

ゆま「あなたが希望インテビューに行っているけど、カメラ戻ってきたら私たちもき」

地鳴り。

三人、驚く。

大きな揺れ。

モノが落ちる音。

悲鳴。

ゆま「すごい揺れたね」

もみ「津波もとかもとかかき」

あや「だめだ、聞かない」

るみ「閉じ込められたってこと？」

ゆま「ドアがゆがんでる」

ドアに体当たりしてみる。

あや「ガラス戸は？」

ゆま「……動かす……動かないね」

るみ「ちよっと外す……いいことになってる！」

ゆま「あれ大事じゃないの？」

るみ「電気が倒れてる……津波も……」

るみ「……いつまで出られないんだろ」

ゆま「りなたちは校内でインタビューしてるから、私たちがここにすることはわかってると思うけど」

あや「停電か……。暖房も入らないね」

ゆま「このまま出られなかったら、食べ物も着替えもないよ」

あや「飲み物はあるよね。あと部活のどろ餅がたぶんある。スタジオに置きっぱなしにしてあるみんなのコーンも何枚あるし……」

あや「トイレどうする？」

ゆま「せつかく、学校に非常食や毛布や簡易トイレがあるのに、私たち何も持たないんだ」

ドアを叩く音。

先生「誰かいるー？」

るみ「います！放送部です」

ドアの向こうで、

まー「大丈夫？」

ゆま「先生に食ってくれてありがとー」

るみ「出たいですー」

あや「おかしな話、余震もくもく思ってるから、しばらくおかしな話、天井にあるライトやスピーカーに気がついて」

のりま「……」

きききき、様子を見に来るから緊張してる」

緊張して」

ブリッジ。

暗くなる前に、使えるものを集めておこう」

るみの声。ここに集めてあったよかった」

少し眠いけど、飲み物は頂きましょう」

ミートン外して布団にしよう」



### 評価・期待ポイント

- 大人には当たり前のものが、今どきの中学生にとっては日常的に使わないものであるといった世代間のギャップを知らしめる作品である。
  - アンケート調査結果を踏まえてシナリオを組み立てるなど、リアリティのある作品に仕上がっている。
  - ラジオドラマとして、鼻濁音がしっかりして聞きやすくクオリティが高い作品である。
- 
- 周波数を知る方法や手回し充電ラジオの使用法、ラジオからの情報の活用方法など、具体的な要素を盛り込んでほしい。
  - 地域防災に対し、子どもの視点から大人の盲点になりがちな意識の啓発をめざすなど、ドラマから防災に一步近づく成長を期待したい。





第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (音声部門)



新規視点賞

## 熊本県熊本市（風水害） 崇城大学 SCB 放送局 / 情報の活かし方

### 作品・活動ポイント

- 映像制作演習という講義の一環で、崇城大学情報学部情報学科の2、3年生の計10名でグループを設立した。
- SNSは問題視されることも多々あるが、逆にそれを災害時にうまく利用したケースも多い。たとえば、マスメディアとは違う生の情報をたくさん掲載することができ、どこにいても多くの情報を共有・取得できる良さもある。
- 現場の状況だけでなく、避難所の情報や交通網情報など地域の中や外に必要な情報を避難所が主体となって共有することができれば、避難所で問題が起こっても、情報の種類によって、施設内での共有の方法、施設間で共有の仕方などを工夫していく様子をイメージしてシナリオづくりを行った。
- 「コミュニケーション」と「情報共有」の2つにわかれた。当初は1つのストーリーだったが、ポイントがばやけた印象になったので、2つの作品として仕上げている。

シーン1

熊本のとある大学。  
ある年の梅雨の時期、熊本では歴史的大豪雨が発生し、自国が避難、自国周辺の約1.5万  
世帯が避難した。高台に建てられた大学は避難場所として利用され、地域の人々が集まっ  
ていた。彼らもその避難所の中に居た。

（雨が降る音）

青木：あーまだ家に帰れないのかよ。

島田：雨止まないしね。

遠藤：でも早いところでや昨日で避難解除が出されたとか。

青木：（めんどくさそうに）でも家に帰っても片付けがあるよな。

島田：……俺らもこの手伝いをしないといけないんじゃないかな。一日や数日を  
いじってるのも……あれ？

（一軒家）音楽流れる（シーン2まで）

青木：お盆さんじゃん。どったの？

島田：なんかさ、みんなが手伝わないでケータイいじってばかりって言われてるよ

青木：まあ、最近のは、手回しですわかっててさ。そのうち、人も増えてきて  
大丈夫って言われたら、もう大丈夫かと思ってる。

島田：そうなのね。……ところで、みんなケータイで何を見てるの？

青木：SNSを見てました。

青木：和也のフレが別の避難所に行っちゃって。SNSで連絡取り合ってたんだよ。

島田：あと、避難所でのイザワとか不満が溢れてきて。そういうのを見てました。

（2人入浴中）

青木：ね、次の仕事があるからー。じゃあ避難期間は短くね？



### 評価・期待ポイント

- 災害時の避難所で発生した問題について、学生と地域住民の2つの異なる視点から描かれており、いずれの世代にも共感できる作品である。
  - 耳の聞こえない人のための身近な情報伝達手段としてSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用するなど、若者の優しさと情報ツールの活用に関するアイデアが高く評価できる。
  - 災害情報の収集や共有、活用に対し、地域のコミュニティFM放送局の震災時の経験（取材）が活かされている。  
※同大学から応募のあった2つの作品を一体として捉え、より高く評価した。
- 
- 大学生の視点から、様々な情報媒体を活用した災害情報の取得方法や伝えるべき相手への伝達方法などについても検討を進めてほしい。
  - コミュニティFM放送局を通じた地域の方々への作品の配信や、作品に関する意見交換など、地域の方々と一緒に活動への展開を期待したい。





第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (音声部門)



## 静岡県富士市（火山噴火） 防災パートナーの会 / 富士山のふもとで暮らすということ

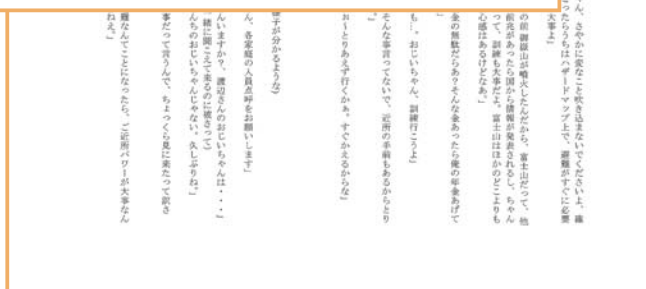
地域調査賞

### 作品・活動ポイント

- 静岡県富士市・富士宮市をエリアに放送中のコミュニティFM ラジオエフが行った「ラジオ講座」の修了生による、災害時の情報伝達を目的としたボランティアグループである。
- 将来予想される富士山の噴火に際して、富士山のふもとに住む自分たちが前もって正しい知識を得ておけば、冷静な行動がとれ、最善を尽くせるのではと考え、富士山噴火をテーマにしたラジオドラマを提案した。
- ラジオドラマでは、「正しい周知」にスポットをあて、富士市でも最も富士山に近い地域の住人（桑崎地区）向けに火山避難訓練を行う中で、それまで実感が湧かなかった富士山噴火に関心を持ち、自ら行動して地域の人と助け合おうとする心を育む様子を描いた。
- 今回は、コンテスト応募用として、1話完結の話を半年かけてじっくりと話し合い、内容を練ってきた。



ドラマ録音



シナリオの検討

### 評価・期待ポイント

- 富士山の噴火に関する災害履歴やハザードマップ、被害想定など、専門的な情報を丁寧に調べ、聴き手への情報提供を意識したわかりやすい作品である。
- 災害時の共助の必要性に対する登場人物の意識と態度の変化を面白く描きながら、防災意識の啓発を図っている。
- 作品の活用においては、行政を通じて地域内に広く発表する場を設けたり、コミュニティFM 放送局で放送するなど、地域関係者と積極的に協力しながら成果の共有が行われている。
- 調査した基礎情報がナレーションとして多く含まれているが、ドラマとして聞きやすいように、うまく台詞に含めるようにするなど、演出面での工夫をしてほしい。
- 放送した内容に関する意見交換を地域関係者で行うなど、具体的な災害対策に結びつけることができるよう、今後も継続した活動のさらなる展開を期待したい。



# 防災ラジオドラマ

(音声部門)



愛知県岡崎市（風水害）  
愛知産業大学三河高等学校放送部 /  
帰宅困難者対策（名鉄 藤川駅）

## 作品・活動ポイント

- 放送部は、1984年に創部し、学校内の放送活動(校内放送)を展開し、地域社会を題材とした放送コンテスト等の大会向け番組制作活動を行っている。
- 大規模災害など、予知あるいは発生した時に、大動脈や市域の交通機関が寸断されたら、無人駅といえども大勢の帰宅困難者が見込まれる。
- 平成26年の動きとして、帰宅困難者対策の一環として岡崎市内の大学・短大と岡崎市間で協定が結ばれたが、協定としての行動計画はあるが、地域や生徒レベルへの説明はない。
- 平成26年7月30日に開かれた防災講演会あいち【身を守る気象情報と竜巻の話】の話題をドラマの設定として、〔AED 講習会編〕と〔災害編〕の2編構成で防災ラジオドラマづくりに取り組んだ。

[illegible]

## 評価・期待ポイント

- 過去の災害履歴調査をはじめ、まちあるき、聞き取り調査、住民や生徒に対するアンケート調査など、綿密な地域調査がなされている。
  - 作品の素材を AED に絞り、身近な課題に対して調査で得られた具体的な事実が作品に盛り込まれており、同時に e 防災マップ上にも整理（情報の可視化）され、臨場感あるリアルで想像しやすい作品である。
  - 自治体の防災担当者、大学、関係協会など、様々な地域組織を対象に充実した取材活動を行い、地域連携に積極的に取り組まれている。
- 
- AED が設置された箇所や施設が災害に見舞われた場合の危険性や安全な経路なども防災マップに提示できるとよい。
  - 学校の放送部の伝統として活動を継続しながら、協力関係機関とさらに連携を強化し、地域防災力の向上に貢献できる活動の展開を期待したい。







第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (音声部門)

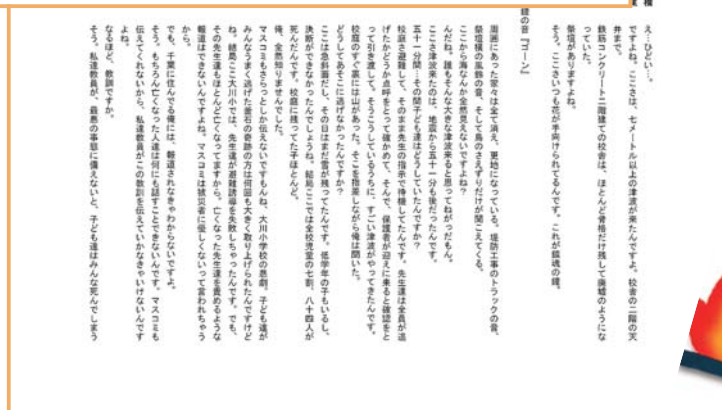


千葉県流山市 (地震・津波)

江戸川大学隈本ゼミ津波グループ / 伝えられていない教訓

## 作品・活動ポイント

- 大学ゼミの一環で、2014年3月11日に東日本大震災の被災地に行き、マスコミの報道では伝わっていない現状を見てきた。
- この見たことを自分の中にしまっておいてはいけない、次世代に伝えていかなければいけないと思い、ラジオドラマの制作に至った。
- 現地の状況をよく知るため、3月と7月の2回、現地調査を行い、その結果をもとに卒業論文も防災ラジオドラマも同時進行で作成した。
- 作品中の「鎮魂の鐘」やトラック、堤防工事の音などは現地で実際に録音したものを使用した。



## 評価・期待ポイント

- 東日本大震災で被災した小学校の「悲惨なできごと」について、新聞報道等の情報収集に加え、現地での聞き取りを行い、しっかり伝えようとする思いが感じられる。
- 災害の教訓を正しく伝えるためには、マスコミによる情報だけでなく、現地で見えて感じながら語り継いでいくことの重要性が伝わる作品である。
- なぜ被害を受けたのかをさらに深く調査し、対策につながる検討に進んでほしい。
- 作品を学校や地域の方々にも聞いてもらい、防災意識の啓発への貢献を期待したい。



第5回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (脚本部門)



山口県防府市 (地震)

水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊 / 地図に載せる気持ち

## 作品・活動ポイント

- 川遊びが好きな子どもたちが校区を越えて集まったグループで、山口県佐波川で活動を始め、地域の方と活動している時、佐波川が昔暴れ川だったという話を聞き、自分たちが遊んでいる佐波川の違う一面も学ぼうということで、防災学習を始めた。
- 中学3年生になったあおいとひかる。これまで、土砂災害にあったり、そのことをきっかけに、防災サインをつくったりと、防災活動が続けている。
- 登場人物が修学旅行先での地震を経験し、これまでほとんど地震の経験のない子どもたちがその中でも冷静に行動し、だんだん成長していくことを描いた。
- 修学旅行の時だけではなく、出かける時には事前に周りのことを調べて得た知識が、旅や観光を楽しむ1つのアイテムになるというメッセージを伝えたい。



## 評価・期待ポイント

- 日ごろの活動の特徴を活かして「防災」に「観光」を結びつけ、地域防災に新たな視点を取り入れた作品である。
- コンテストへの継続した参加実績を活かし、作品内に2人の主人公を毎回登場させ、防災を学び、成長していくというアイデアが面白い。
- 数回にわたる講習会や学習会を開催したり、ドラマだけでなくe防災マップを制作(同時応募)するなど、積極的な防災活動に取り組んでいる。
- 災害時の観光客や地元住民の対応に関するシーンを加えるなど、ドラマの趣旨や災害時のストーリーの具体性を工夫してほしい。
- 観光客に向けた防災としての取り組みを進化させ、マップとシナリオの両方から、本格的な防災&観光の相乗効果を目指した活動を期待したい。

### CD 収録ドラマ (Track)

- 01. 「高田地震から学ぶ地域の絆」 (6' 21")  
- 保坂先生と愉快的仲間達 (新潟県上越市)
- 02. 「熊と生きる町」 (6' 51")  
- 富山県立南砺福野高等学校放送局 (富山県南砺市)
- 03. 「ラジオのある夜」 (6' 33")  
- 江戸川女子中学校放送部 (東京都江戸川区)
- 04. 「情報の活かし方」 (6' 34")  
- 崇城大学 SCB 放送局 (熊本県熊本市)

- 05. 「富士山のふもとで暮らすということ」 (6' 58")  
- 防災パートナーの会 (静岡県富士市)
- 06. 「帰宅困難者対策 (名鉄 藤川駅)」 (6' 56")  
- 愛知産業大学三河高等学校放送部 (愛知県岡崎市)
- 07. 「伝えられていない教訓」 (6' 31")  
- 江戸川大学隈本ゼミ津波グループ (千葉県流山市)

### 第 5 回防災コンテスト受賞作品集

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■発行日   | 2015 年 4 月                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| ■制作・著作 | 国立研究開発法人 防災科学技術研究所<br>社会防災システム研究領域<br>災害リスク研究ユニット<br>URL <a href="http://bosai-contest.jp">http://bosai-contest.jp</a><br>〒 305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1<br>Tel : 029-863-7553<br>Fax : 029-863-7541<br>mail : <a href="mailto:risk_office@bosai.go.jp">risk_office@bosai.go.jp</a> |



2015 年度

第6回

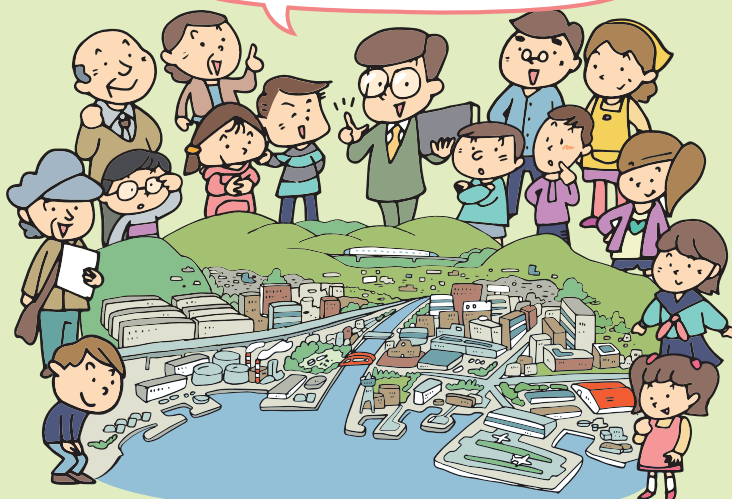


地域の絆をつくる

## 防災コンテスト

グループ  
大募集

防災活動に参加してみませんか？



「防災コンテスト」は、災害時に役に立つ地域の協力体制づくりを目指す取り組みです。

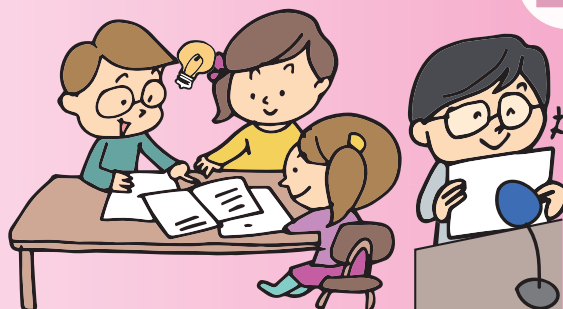


## e 防災マップ



「防災活動の手引き」と「地域防災キット」を利用し、「活動のステップ」に沿って「e 防災マップ」または「防災ラジオドラマ」をつくります。

## 防災ラジオドラマ

活動  
ステップ

STEP1



確認する

STEP2



調査する

STEP3



検討する

STEP4



活用する

## 日程

- 申込開始  
2015年6月上旬
- 応募締切  
2015年12月下旬
- 結果発表  
2016年2月上旬
- 表彰式・シンポジウム  
2016年3月上旬

## 参加資格

地域の防災力を高めたいと考えている方は、どなたでも参加できます。

- 防災グループ部門: 自主防災会、避難所運営組織、災害 NPO など、日ごろから防災活動に取り組んでいるグループ
- 非防災グループ部門: 学校、福祉団体、地域コミュニティなど、新たに防災活動に取り組むグループ

※ 本コンテストをきっかけにして、多くの方々が防災活動に取り組んでいただくため、部門を分けた審査を行います。

## 表彰

- e 防災マップ
  - ・最優秀賞 1 点
  - ・優秀賞 ほか 10 点程度
- 防災ラジオドラマ
  - ・最優秀賞 1 点
  - ・優秀賞 ほか 10 点程度
- 表彰式・シンポジウム  
2016 年 3 月上旬（東京にて開催予定）  
※ 受賞グループをご招待！  
（詳細は募集要項をご参照ください）

## お申込み・お問合せ

防災コンテスト

検索

<http://bosai-contest.jp>


主催

  
NIED  
国立研究開発法人  
防災科学技術研究所

後援

  
内閣府  
Cabinet Office, Government of Japan


  
文部科学省


  
一般社団法人  
防災教育普及協会